

ヘテジジャーなる



OG/OB と学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を季節の便りとしてお届けしていきます。

INDEX

1. 筑波大学メッセージソングと私 / 天野隼太

「IMAGINE THE FUTURE ～未来を想え」への思いを語ります。

2. 「届かなかった箱根路への切符」 / 川上真生

～箱根駅伝予選会の裏側～

3. 「チュロス通り」を楽しむ / 加藤緑

メタセコイア（生きた化石）について調べてみました

4. 今のうちに 2023 年を振り返っておく / 新田悠樹

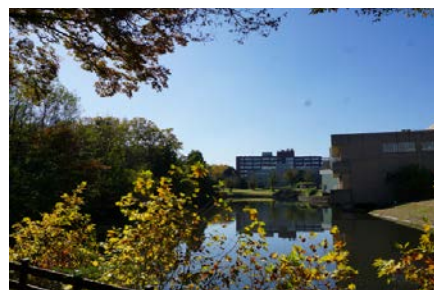
巡る季節の写真を添えて

5. “かすよんの民” の筑波大学構内への入り方 / 山田優芽

事故が起こるのも時間の問題？

6. 筑波の近況・秋 / 野澤遼太郎

丸善の P.O.P.



1. 筑波大学メッセージソングと私

「IMAGINE THE FUTURE ～未来を想え」への思いを語ります。



■冬の到来は懐かしい思い出とともに（秋号なのにごめんなさい）

秋があっという間に過ぎ、冬の到来を少しずつ感じる季節になりました。皆さんはどんな時に「冬が始まったな」と感じますか？私は、石油（石油ストーブ）の匂いが鼻をかすめた時ですかね。小学生のころは、今の生活からは考えられないくらい早起きで、5時半前には起床していました。冬の朝は寒いので、寝間着の上に「はんてん」をはおります。家の中はまだ真っ暗なのですが、書斎だけ明かりが付いており、父が仕事をしていました。教員である父は、夜9時過ぎには寝て、朝5時起床、朝食までの約1時間に授業の準備や事務的な作業をしていました。それは今も変わらない習慣です。書斎には石油ストーブが置いてあり、父が仕事をする傍ら、私と兄がストーブに当たりながら本やマンガを読んでいたことをよく覚えています。それもあってか、石油の匂いをかぐと、「どこかの家も石油ストーブ使い始めたな」と思い、懐かしい思い出とともに冬の到来を感じるのです。

年内の冬の行事といたら、クリスマスや年越しが思い浮かぶでしょうか。毎回（毎年）同じようなことをやっているようでそれぞれに思い出があり、かけがえのないエピソードが詰まっていますね。私は今年で22回目のクリスマスと年越しを迎えるわけですが、「も～う、い～くつ、ね～ると～お正月♪」と呑気に歌っている場合でもないのです。12月22日正午までの提出……。そう、卒業論文の執筆です。それを乗り越えなければ、私にクリスマスとお正月は訪れないと言っても過言ではありませんし、なんとか勝ち取った内定も水の泡になるわけです。頑張れ私。くじけるな私。でも体調管理には気を付けてね私。

追い詰められて心がもろくなっている時、音楽は私たちに勇気を与えます。みなさんも、「辛い時に○○○の歌に励まされた」という経験はありませんか？私も大学受験期に、ある歌に励まされました。それが、筑波大学のメッセージソング「IMAGINE THE FUTURE ～未来を想え」です。この歌を何度聞いたことか……。歌を聞くたびに、「絶対筑波大学に合格する」という思いを再確認しました。ここからやっと本題に入りますが、メッセージソングと私の出会いについて書き進められればと思います。やや唐突な導入ですが、決して私は大学の回し者ではございません。メッセージソングの一愛聴者です。

■まずはメッセージソングを聞いてみませんか？

そもそも、メッセージソング「IMAGINE THE FUTURE ～未来を想え」とは、どういったものなのでしょう。メッセージソングの初演奏は2011年ですので、OB・OGの方々の中には、その存在を知らない方もいらっしゃるかもしれません。以下に、2019年度入学式で歌われていたユーチューブのリンクを貼りますので、お時間があればぜひ聞いてみてください。

「平成31年度入学式歓迎の歌『IMAGINE THE FUTURE ～未来を想え』」

< <https://www.youtube.com/watch?v=A5jQX1MoluI> >

いかがだったでしょうか。サビの「Imagine the future We shall go together ♪」が頭から

離れない人もいるのではないのでしょうか。曲の歌詞は以下をご覧ください。

「大学案内 筑波大学メッセージソング『IMAGINE THE FUTURE ～未来を想え』」
< <https://www.tsukuba.ac.jp/about/public-branding/messagesong/> >

僕はこの歌に溢れる思いがあるのですが、それは後半で話すとして、まずは「なぜこの歌が誕生したのか」という問いから始めましょう。

■メッセージソングの誕生

メッセージソングは、故・山田信博・第8代学長の下で、2009年から行われた「筑波ブランド」構築（ブランディング化）の一環で誕生しました。2010年4月に筑波大学のスローガンとして「IMAGINE THE FUTURE. (ITF.)」が制定され、その翌年の2011年4月にメッセージソングが初演奏されました。

スローガンは、コピーライターの一倉宏さん（昭和52年度人文学類卒）が考案しました。筑波大は創立時から「未来型」で「開かれた大学」というアイデンティティーがあり、その「筑波大らしさ」を一言で表したものが「ITF.」だそうです。永田恭介学長は、筑波大学新聞の取材で「スローガン（ITF.）は筑波大が40年かけて作って来た価値を一言で表現したものだ」（2021年4月）と語っています。

それでは、スローガンをどのように発信・共有すべきなのでしょう。その有効な方法として考案されたのがメッセージソングでした。キャッチコピーを歌にのせたCMソングは、まさにこの方法ですね。一倉さんが作詞をし、作曲家の吉川洋一郎さん（昭和51年度自然学類入学）の作曲で、「IMAGINE THE FUTURE ～未来を想え」が完成しました。初演奏の場所は、なんと陸上競技場。東日本大震災で大学会館が被災し、急きょ青空の下で開催した入学式でのお披露目でした。

その後、メッセージソングは入学式などの式典、オープンキャンパス、雙峰祭など大学生活の節目節目で歌い継がれてきました。筑波大のYouTube公式チャンネルには、入学式・卒業式での演奏や、学生や教職員、課外活動団体や卒業生が出演するミュージックビデオ（MV）など、メッセージソング関連の動画が複数掲載されています（MVは2011～14年まで毎年製作されていました）。日本語以外にも、英語版と中国語版があり、日本語版にはない魅力があるので、ぜひ聞いてみてください。ちなみに、英語版はクリス・ハートさん、中国語版はaminさんが歌っています。英語版と中国語版のリンクを以下に貼っておきます。

英語版：「IMAGINE THE FUTURE 2014 by Chris Hart」
< https://www.youtube.com/watch?v=wG1__K2d-c&t=52s >

中国語版：「IMAGINE THE FUTURE ～想像未来」
< <https://www.youtube.com/watch?v=G0wEZ3ppNwQ&t=114s> >

■メッセージソングとの出会い

ここからは、私とメッセージソングの出会いについて話します。あれは、2018年の夏まで遡ります。当時高校2年生だった私は、筑波大のオープンキャンパスに参加し、模擬授業を受けていました。その休憩時間、教室全体がざわざわしている中で、どこからともなく「Imagine the future We shall go together ♪」と聞こえてくるのです。「どこから聞こえているんだ?」。そう思ってあたりを見回すと、教室の大きなスクリーンから映像とともに聞こえているのが分かりました（今考えると、英語版のメッセージソングの映像が、ループで流されていたのだと思います）。「なんだこの歌? やけに耳に残るな……」。最初はそんな感想を持っていました。

その後、家に帰ってもあの「Imagine the future We shall go together ♪」が頭から離れず、あの歌はなんだったのかと気になり、スマートフォンで調べてみました。そこで、動画の存在を知り、初めて視聴したのが以下の動画です。

『『IMAGINE THE FUTURE ～未来を想え』2014年版』

< <https://www.youtube.com/watch?v=Ll89Pi63S7I&t=322s> >

これは、2014年度版のMVです。動画では、学生や教職員、課外活動団体や卒業生がメッセージを歌っているだけなのですが、高校生活にはない自由さ、多様な人がいる大学生ならではの雰囲気などを強く感じました。「自分も、この動画に映る大学生のように、楽しく学びある大学生活を送りたい」。そのような強烈な憧れを抱いた瞬間でもありました。

それからというもの、勉強に力が入らない時、集中力が切れた時には、必ずと言っていいほど、メッセージソングを聞くようになりました。

■メッセージソングとコロナ禍

その後、メッセージソングに励まされ何とか比較文化学類に合格した私は、入学が近づくとつれ、とてもワクワクしていました。入学式で生の「IMAGINE THE FUTURE ～未来を想え」を聞けるからです。もう、これをどんなに待ち望んだことか。そんな矢先、コロナ禍の波が社会を覆い始めました。

「入学式は中止」。ショックで言葉が出ませんでした。「生のメッセージソングを聞けるのは4年後、つまり卒業式かぁ」と落胆し、しばらく立ち直れませんでした。それからしばらくして、オンライン授業、土曜授業、出席確認も兼ねた課題の山という未だかつてない試練が訪れます。「MVの中で楽しそうに歌っていた大学生たちは幻なのか」。そう思う日もちらほらありました。

2年生になると、コロナ禍がやや落ち着き、キャンパスに学生が増え始めました。やっと友達ができはじめた私は、早速メッセージソングについて話してみるのですが「メッセージソング? そんなのあるの(笑)?」という回答ばかりが返ってきました。入学前からメッセージソングをよく聞いていた私が相当異常であることは十分承知しておりますが、率直に「あれ?」という気持ちでした。

当時筑波大学新聞の記者になりたての私は、なんとかその疑問を解消したいと思い、メッセージソングの認知度調査をしました。入学式がなくメッセージソングを聞けなかった2年生（私と同学年）と、入学式でメッセージソングを聞いた3、4年生では、認知度に差があるのではないかという仮説を立てました。

アンケートは2～4年生を対象に290人（2年生：136人、3、4年生：154人）から回答を得ました。その結果、メッセージソングを知っていると答えた学生は、2年生が77人（56.6%）、3、4年生が149人（96.8%）と大きな開きがあることが分かりました。また、メッセージソングを知っている学生に「どのようにして初めて知ったか」聞いたところ、3、4年生は131人（87.9%）が「入学式」と回答し、2年生は最多が「オープンキャンパス」で23人（29.9%）、続いて「筑波大学公式YouTube」の動画で21人（27.3%）となりました。この結果から、メッセージソングを知る上で入学式は大事な機会であり、コロナ禍での開催中止は認知度を下げる大きな原因になったと言えるのではないのでしょうか。アンケートの結果を詳しく知りたい方は、筑波大学新聞の2021年4月5日号をご覧ください（<https://www.tsukuba.ac.jp/about/public-newspaper/pdf/362.pdf>）。

2021年以降はコロナ禍に配慮しつつ入学式が再開しました。これで、多くの新入生がメッセージソングの演奏を聞く機会が復活したんだと思いほっとしました。しかし先日、後輩から「入学式で演奏されなかった」という衝撃的な事実を聞きました（会場のBGMのような形で流れていたそうです）。「あれ？」。思わず言葉が出ませんでした。なぜ歌われなくなってしまったのでしょうか……。筑波大学さん、どうか演奏を復活させてください！入学式はあの歌の認知を広げ、後世につないでいくとても大切な機会だと私は思うのです。

ちなみに、今年10月に開催された「創基151年筑波大学開学50周年記念式典」でも演奏されることはありませんでした。こうなると、「卒業式で聞くんだ！」という私の夢が叶わない可能性が出てきましたね……。私は筑波大学さんを信じています。

■メッセージソングと旅立

入学式が中止になった日、「生のメッセージソングが聞けるのは4年後、つまり卒業式かぁ」と落胆したと先ほど書きました。あの時の私にとって、「卒業式」はずっとずっと先のことのように思っていたのですが、気づけばあれから3年が経ち、あと4ヶ月少して卒業式になってしまいました（卒論を出せばの話ですが。何とか出します）。思えば、入学から今までであったという間でした。多くの人と出会い、笑ったり、泣いたりしてたらもう4年生。大学生活も、終盤に差し掛かっています。

実は私、メッセージソングの愛聴者といいながら、大学入学以降ほとんどメッセージソングを聞いていませんでした。授業やサークル活動、アルバイトをする中で、段々とメッセージソングの存在が頭の片隅に追いやられていった気がします。

そのため、今回「ペデジャーなる」を執筆するために、数カ月ぶりにメッセージソングのMVを見ました。すると、入学前や1、2年生の時とは違う感情がこみ上げてきました。「自分は、MVに出ている当時の筑波大生のようになれているのだろうか」と。当時、MVに出ていた筑波大生は、高校生の私にとって「お兄さん」「お姉さん」的な存在であり憧れの的でした。それが今では同じ年齢になってしまったのです。とても驚きましたね。憧れの人と同じ年齢になったのに、なぜかその背中はずっとずっと遠くにあり続ける感覚は皆さんにもありませんか。

話は長くなりましたが、おそらく卒業式で学生生活最後の「IMAGINE THE FUTURE ～未来を想え」を聞くとおもいます（信じていますよ！筑波大学さん！）。その時は、「筑波大に入学して良かった」と胸を張って、社会に旅立てるのだと信じています。

最後になりますが、メッセージソングの歌詞の中で私が好きな箇所を紹介します。

君は見たか 未来は振り向き
君は見たか そっと僕らに告げる
Imagine the future
We shall go together
共に生きる 人類（ひと）の 未来を 想え
Imagine the future
We shall go together
開かれた その未来を 想え

未来は、常に私達に「Imagine the future」と呼び掛けます。そして、未来は決して1人ではなく、みんなで一緒に創り上げ、共に歩いていくものです。これは、大学生活を終え、これから社会の中で生活する中でも大切なメッセージだと思います。これからも「ITF.」の精神を持ち続けていきたいと思っています。そうはいつでも、私の大学生活はまだ4ヶ月「も」残っています。卒論も提出して、あとは思いっきり楽しみます。それでは。

■参考文献・サイト

- ・筑波大学新聞「紡がれる思い メッセージソングの今とこれから」2021年4月5日付、第362号（7）（<https://www.tsukuba.ac.jp/about/public-newspaper/pdf/362.pdf>）（2023年11月3日最終閲覧）
- ・筑波大学「大学案内 筑波大学メッセージソング『IMAGINE THE FUTURE ～未来を想え』」< <https://www.tsukuba.ac.jp/about/public-branding/messagesong/> >同
- ・筑波大学ユーチューブ公式チャンネル「平成31年度入学式歓迎の歌『IMAGINE THE FUTURE ～未来を想え』」< <https://www.youtube.com/watch?v=A5jQX1MolUI> >（同上）
- ・筑波大学ユーチューブ公式チャンネル「IMAGINE THE FUTURE 2014 by Chris Hart」< https://www.youtube.com/watch?v=wG1_-K2d-c&t=52s >（同上）
- ・筑波大学ユーチューブ公式チャンネル「IMAGINE THE FUTURE ～想像未来」< <https://www.youtube.com/watch?v=G0wEZ3ppNwQ&t=114s> >（同上）
- ・筑波大学ユーチューブ公式チャンネル「『IMAGINE THE FUTURE ～未来を想え』2014年版」< <https://www.youtube.com/watch?v=Ll89Pi63S7I&t=322s> >（同上）

（人文・文化学群 比較文化学類4年 天野隼太）

2. 「届かなかった箱根路への切符」 ～箱根駅伝予選会の裏側～



来年1月に第100回を迎える「東京都箱根間往復大学駅伝競走」（箱根駅伝）。その予選会が10月14日、東京都立川市（陸上自衛隊立川駐屯地～国営昭和記念公園）で開催されました。筑波大は10時間49分7秒の20位で惜しくも予選通過となる13位に届かず、4年ぶりの本戦出場には届きませんでした。

今回は筑波大学新聞の学生記者として予選会取材した時の舞台裏をお届けしたいと思います。結果は筑波大学新聞第379号（2023年11月1日発行）で詳報していますので、良かったらそちらもご覧ください。

今大会は4年ぶりに有観客での開催となった上、第100回の節目を記念して「出場枠が13校に拡大（例年は10校）」「関東以外の大学も参加可能」という特別な大会でした。大会直前のチーム状況について駅伝監督の弘山勉准教授に聞くと「箱根に出場できる実力はあると思う。大舞台に慣れている選手が少ないため練習してきた成果を本番に発揮できるかどうかのポイントになる」ということでした。

さらにチームは2019年から毎年、熊本県水上村で合宿を実施していますが、今回は玉名市まで足を伸ばし金栗四三さんのお墓参りをしたといます。金栗四三さんは東京高等師範学校出身で箱根駅伝の創設に尽力した人物です。2019年にはNHK大河ドラマ「いだてん」の主人公となり話題になりました。4年前に箱根駅伝出場を果たした時もお墓参りをしていたということで、今回は「運」も味方につけて予選会に臨んだということです。

予選会は自衛隊立川駐屯地から国営昭和記念公園に向かうハーフマラソンコース（21.0975km）を走ります。各校10～12人がレースを走り上位10人の合計タイムで争います。

レース当日は晴天で気温が16℃と涼しい朝となりました。スタート会場の陸上自衛隊立川駐屯地にレース開始約45分前に着くと、雰囲気は熱気を帯びていました。コース周辺には三

重四重と取り囲むように人が連なっていました。人だかりの一角に筑波大の「フューチャーブルー」を身にまとった大学職員や陸上競技部のOBOGを見つけ、筑波大学新聞の記者であることを名乗るとご厚意で最前列を譲ってくださいました。まず選手は駐屯地



会場を盛り上げる筑波大の応援部「WINS」（陸上自衛隊立川駐屯地で）

内のコースを3周しますが、コース内部には各校の応援団が選手を鼓舞しており、筑波大からも応援部「WINS」が駆け付けていました。WINSは宇宙戦艦ヤマトのテーマ曲やつくばコールで会場を盛り上げていました。



集団の中を走る平山主将（右から2人目）（陸上自衛隊立川駐屯地で）

レースが始まると先頭集団が近づくとつれ声援が大きくなり、さまざまなカラーのユニフォームを着た選手たちが現れました。今大会は全国から出場校が集まっていることもあり、立命館大や京都産業大など関西の大学の姿もありました。筑波大の選手は散らばっており、集団の中から桐の葉のユニフォームを見つけては連写し続けました。

スタート地点取材後は昭和記念公園内で写真を撮影するため撮影場所の確保に向かいました。駐屯地にいた観客が一気に昭和記念公園まで移動するため人にもまれながら駐屯地を後にしました。撮影場所を決め、今か今かと選手の通過を待っていると沿道の雰囲気は少しずつ張りつめていく感覚がありました。コースの奥から歓声が上がったかと思うとカーブから留学生選手が走ってきました。少しすると日本人学生の集団も目の前を通過していき、沿道からは「頑張れ!」「負けるな!」という大きな声援や手拍子がありました。数十人のランナーが通過した後、筑波大の塚田萌成選手（医学4年）の姿が見え、その後も筑波大の選手が立て続けに通過していきました。選手の表情は苦しそうでしたが、彼らを鼓舞する気持ちでシャッターを切り続けました。



チームトップの走りを見せた塚田選手（右から2人目）
（国営昭和記念公園で）

12人全員の通過を見届けた後は「みんなの原っぱ」特設ステージに移動して、結果発表を待ちました。到着後、関係者に当たってチーム内順位を確認しましたが、笑顔は少なく厳しい順位であるということが伝わってきました。

結果発表では祈る気持ちでアナウンスを聞いていましたが、13位までに筑波大の名前が呼ばれることはありませんでした。

結果発表後、弘山監督と駅伝メンバーから応援に駆け付けた関係者向けに挨拶がありました。筑波大は10時間44分00秒を目標タイムにしていたものの13位だった山梨学院大の記録は10時間39分47秒とそれを大きく上回っていました（弘山准教授によると、目標タイムは不快指数65で想定されており、レース当日は不快指数60だったためそのまま比較することはできないということです）。それらも踏まえて弘山准教授は「予想以上に他大学の実力が上がっており、箱根出場校とのタイム差が年々広がっている。取り組みを根本的に見直す必要がある」と総括しました。

主将の平山大雅選手（体専4年）は「箱根に出場するという目標を掲げながらそれを達成す

ることができず悔しい。万全の準備をしてきたつもりだったが、もう1、2段階上の取り組みが必要だった。卒業するまでの間、後輩たちに4年間の経験を伝え来年の箱根出場を応援したい」と涙をぬぐいながら話していました。

第100回の記念大会で箱根出場は叶いませんでしたが、体育専門学群以外の学生も多く、限られた時間の中で箱根に向けて最大限の練習を積んできたそうです。学業に打ち込みながら箱根を目指すのは容易なことではありませんが、それを目指す選手の努力を感じた予選会でした。今後も筑波大学新聞で箱根を目指す選手たちの取り組みを追っていかうと思いますので、紙面でもご期待いただけますと幸いです。



予選会終了後、関係者に向けて挨拶をする選手ら（国営昭和記念公園で）

参考文献

[1] 筑波大学新聞第379号（2023年11月1日発行）

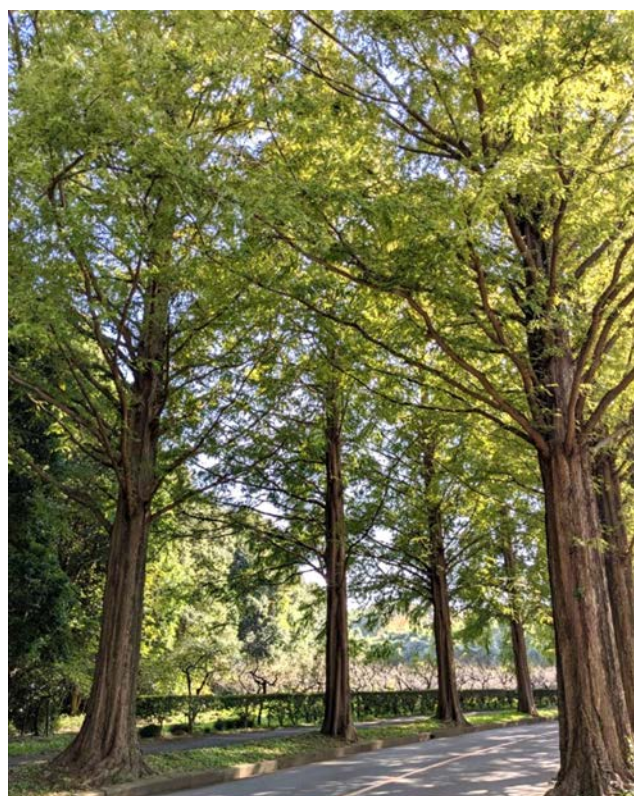
<https://www.tsukuba.ac.jp/about/public-newspaper/pdf/379.pdf>（2023年11月3日最終閲覧）

[2] 箱根駅伝2024予選会：総合成績・結果：読売新聞(yomiuri.co.jp)

<https://www.yomiuri.co.jp/hakone-ekiden/2024/yosen-sougou/>（2023年11月3日最終閲覧）

（社会国際学群 社会学類2年 川上真生）

3. 「チュロス通り」を楽しむ メタセコイア（生きた化石）について調べてみました



メタセコイア並木

「何かの食べ物に似ていてうまそう～」

10月初旬のある日、毎日往復している「あけぼのすぎ通り」を一の矢学生宿舎から自転車で第二エリアに向かっていたところ、道路両側にあるメタセコイアの幹を見てそう思いました。

私の変な癖でもありますが、何かを見た時に、食べ物と関連付けようとしてついつい美味しそうに見えてしまいます（お腹が空きます）。そして思わず「うまそう」と声に出すため、周りから変な目で見られがちです（当たり前ですね）。

さて、毎日目にするメタセコイアの幹についてまじめに数日かけて考えてみたところ、思い浮かびました。チュロスです。細長い・まっすぐ・表面に縦向きのきれいな凸凹……間違いなく数回しか食べたことがないチュロスだ！そう確信しました。

というわけで、学内（一の矢周辺）の「チュロス」について調査してみました。「チュロス」はあけぼのすぎ通り沿いの両側にあります。あけぼのすぎ通りはざっくり言うと生存ダイナミクス研究センター（TARAセンター）の東側の道から学内ループ道路の最北端までです。

TARAセンターの東側にある道を北向きに進んでいくと、途中で藤沢豊里線が横切るため、信号が現れます。信号を渡ってさらに進むと植物見本園が左に見えます。この道路も、メタセコイアが両側に植わっていて、常に美味しそうなチュロスに見えます。ずっと進んでいくと、一の矢学生宿舎が左側に現れ、ループ道路の最北端に到着します。そのあたりからメタセコイアではなく幹が迷彩柄になっているプラタナスが見え、すずかけ通りに差し掛かります。

あけぼのすぎ通りのメタセコイアを数えてみたら、169本ありました。しかし筑波大学施設部がまとめた「筑波大学の施設・環境計画」には185本植栽したと記載されています。16本はどうしたのか、よく分かりませんが（私が数え間違えたかもしれません）、いずれにせよ約1kmの道の両側には160本以上のチュロスが、あ、間違えました、メタセコイアがそびえ立っているということになりますね。



ご覧ください！この立派な「チュロス」！



看板と「チュロス」

余談ですが、学内ループ道路の複数箇所には看板があり、そこに「構内は静かに」や「キャンパスを緑に」とともに通りの名前（例：あけぼのすぎ通り）が書いてあります。入学して間もない頃、野球場近くのけやき通りで「キャンパスを緑に けやき通り」の看板を見つけて、一人で興奮していました。なぜかと言うと、私の名前に「緑」という漢字が入っていて、「筑波大学はキャンパスを私に譲るつもりか!？」と思ったからです。まあ、そんなことはあるはずがないのですが、私はただその看板の写真を撮って、LINEのプロフィール背景画像にして満足していました(?)。ある時、お笑いセンスが抜群な先輩がその画像を見て「うまい!こりゃ座布団10枚!!」と褒めてくれて、うれしかった記憶があります。

話を戻しましょう。メタセコイアは樹高が15 mを超えていて、葉がその上層部で茂っています。葉の色は、春と夏がとてもまぶしい緑色で、11月3日現在は少し黄色がっています。この時期だと、朝の早い時間に霧が濃いため、木漏れ日が幻想的できれいです（しかしとても寒いのでいつも震えながら見ています……）。もう少し経つと葉が赤色に変わり、紅葉を楽しむことができるでしょう。メタセコイアは落葉針葉樹であるため、冬になると葉が落ちます。

さて、「あけぼのすぎ通り」と呼ばれているメタセコイア並木道ですが、「アケボノスギ」はメタセコイアの和名です。その由来は英語の一般名「dawn-redwood」（dawn はあけぼの、redwood はスギ）から来ています。「あけぼの」という名が付けられたのは、英語で「dawn of time」は「古い」という意味があるからです。海外のサイトを調べると、「メタセコイアは太古の昔と同じくらい古い（this tree = メタセコイア = is as ancient as the dawn of time）」と記載されています。つまり、「あけぼのスギ」であるのはメタセコイアが古いからです。少し意味不明になってきましたね。これを理解するためにはメタセコイアの過去を知る必要があります。



とある木に付いていたメタセコイアの説明が書かれているラベル

1941年、当時京都帝国大学の講師だった三木茂博士は発見した植物の化石の属名を「メタセコイア属」と名付けました。なぜ生存個体ではなく化石を命名したのでしょうか。当時、メタセコイアは100万年前に絶滅したと考えられ、生きている種がなかったからです。実際、メタセコイア属で現存しているのはメタセコイアのみで、他の仲間は絶滅しました（まだ発見されていないだけかもしれませんが）。しかし三木博士がメタセコイア属と命名した4年後の1945年に中国四川省でメタセコイアの現存種が見つかりました。その現存種は化石記録の特徴と大きな違いはなく、後期白亜紀に出現してから変化していないと言えます。絶滅したと思われていた（今まで化石しかなかった）生物が実は生存している、まさに「生きている化石」ということで、発見されて以来そう呼ばれています。ということで、メタセコイアが「古い」理由はお分かりいただけましたでしょうか。

メタセコイアは大昔に日本にも生存していましたが、何等かの理由で絶滅しました。1950年に日本でメタセコイアの苗木が植えられことを機に、メタセコイアは日本に「再進出」しました。その後各地で育てられるようになり、先述のように学内にもその並木があります。したがって、日本に現存するメタセコイアは最長寿でも73年ということになります。筑波大学にあるメタセコイアは開学後に植えられたため、樹齢は50年未満だと予想できます。

「チュロスに似ている」から始まっていろいろ調べてみたら面白いことを知ることができました。ちなみにインターネットで「メタセコイア チュロス」と検索するといくつか結果が出てきますので、同様の考えを持っている人が世の中にいるということですね。皆様も筑波大学に戻ってくる機会がありましたら、ぜひループ道路を最北端まで行き、「チュロス通り」を自分の目で確かめてみてください。その時に「チュロスだ!」と共感していただければ幸いです。

以上、すぐお腹が空くためリュックの中は常に食べ物が入っている生き物好きの学生がお届けしました。最後までお読みいただきありがとうございました。

参考文献

・筑波大学施設部施設企画課「筑波大学の施設・環境計画（計画建設の12年間の記録）」p122~123（1985年3月）

<https://shisetsu.sec.tsukuba.ac.jp/tuv/10.pdf>

（最終閲覧日 11月3日）

・日本古生物学会「化石」57号 p24~30「メタセコイア属の古生態と古生物地理」（百原新、1994年）

<https://www.palaeo-soc-japan.jp/publications/old/57.pdf>

（最終閲覧日 11月3日）

・日本古生物学会「化石」100号 p1~2「メタセコイアの発見と普及——三木 茂博士の発見から75年——」（塚腰実、2016年）

https://www.palaeo-soc-japan.jp/publications/100_TsukagoshiFP.pdf

（最終閲覧日 11月3日）

・Morris Arboretum & Gardens, University of Pennsylvania「Plant Names and Provenance: Dawn-redwood」（Katherine Wagner-Reiss、2022年9月29日）

[https://www.morrisarboretum.org/blog/plant-names-and-provenance-dawn-redwood#:~:text=Metasequoia%20glyptostrobooides%20\(dawn%2Dredwood\),eight%20of%20these%20majestic%20trees.](https://www.morrisarboretum.org/blog/plant-names-and-provenance-dawn-redwood#:~:text=Metasequoia%20glyptostrobooides%20(dawn%2Dredwood),eight%20of%20these%20majestic%20trees.)

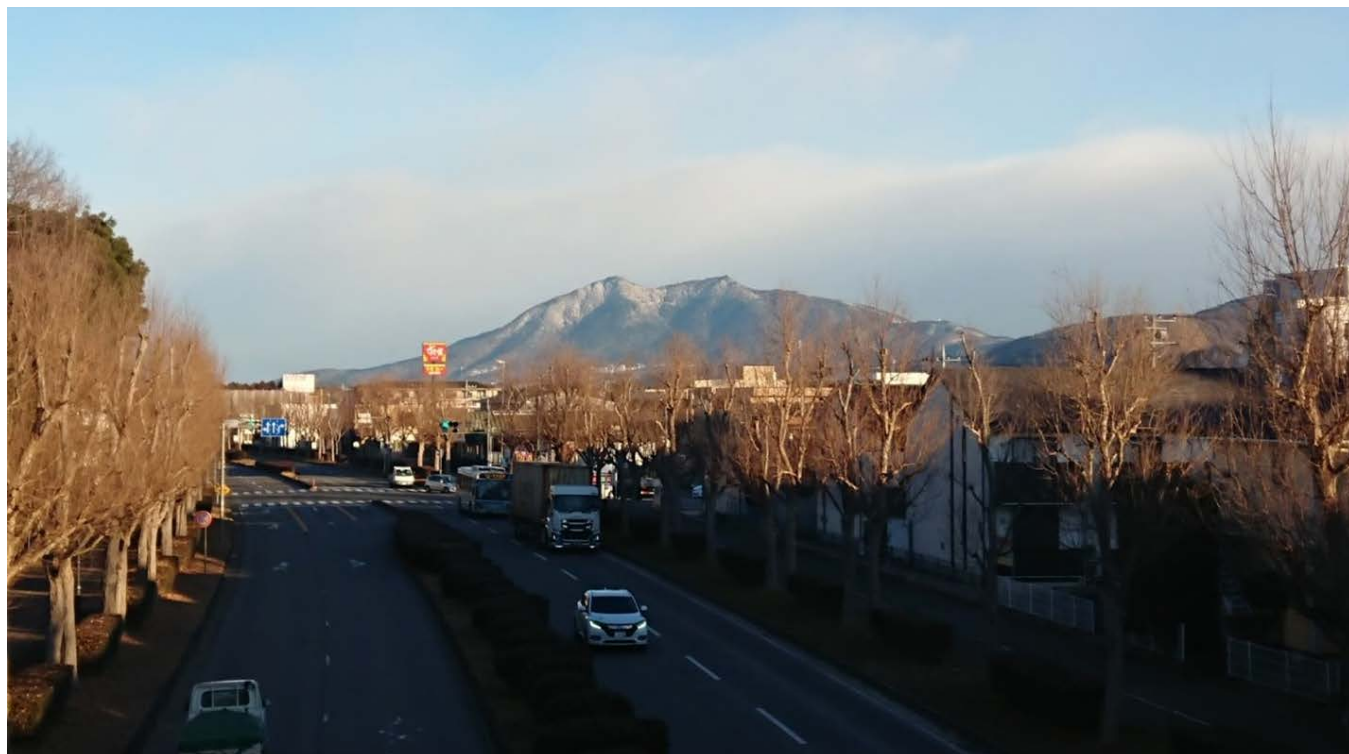
（最終閲覧日 11月3日）

（生命環境学群 生物学類2年 加藤緑）

4.今のうちに 2023 年を振り返っておく 巡る季節の写真を添えて



紫峰の雪はスマホをかざしてこれを撮る



(2023 年 1 月 25 日 東大通り歩道橋から撮影)

冒頭から季節感の無い写真を掲載しましたが、これも故あってのことです。2023 年を振り返り、皆様に「良いお年を！」とお伝えできるタイミングは、今しかないのです。本稿は「ペデジャーなる秋号」として皆様にお届けしております。季刊である本誌が次に発行するのは「冬号」。これを公開できるのは、おそらく 2024 年の 2 月頃になってしまいます。少々気が早いですが、今のうちに本年を総括してしましましょう。

上の写真は、2023 年 1 月の朝に筑波山を撮影したものです。空気が澄んでいたのも、山頂の雪がよく見えました。

春はたけのこ。

孟宗すごく集めたからには、強火よく茹で、炊き込み味わう飯の、旨く再び炊く
(2023 年 4 月撮影)



お次はタケノコの写真です。今年の春、私が所属している一般学生団体「のうりんむら」（農業系サークル）でお付き合いのある農家さんから、タケノコをいただきました。季節ならではの豊かな味わいでした。



ところで、2023年の春は桜の開花が早かったことを記憶している方も多いと思います。平砂・追越学生宿舎前の桜も、3月の下旬には満開となりました(2023年3月24日撮影)。

夏はムリ。

正午ごろはマジ無理。闇夜なお、火照りもすごくガチ暑すぎる。
また、たった一日二日でも、草刈りちよいサボりしているとオワタ\ (^o^)/。
雨なぜ降らぬの、おかしい。



穏やかだった春から一変、今年の梅雨はなかなか雨が降らず、かと思えば急に極端な大雨が降り出しました。学内の道路には、水没地点が多数出現。まさにスプラッシュ・マウンテンです(2023年6月3日一の矢学生宿舎前の道路で撮影)。



そして梅雨が明けると、厳しい暑さが続きました。今年の夏、つくば市で観測された最高気温は37.1℃(2023年8月4日)だそうです。夜も蒸し暑く、寝苦しい毎日が続いたことを記憶しています。「のうりんむら」の畑は草刈りが間に合わないほど雑草が伸び放題となり、その一方で雨不足により作物は元気をなくすばかり。今年は全体的に、野菜が不作です。上の写真は畑で採れた作物を撮影したものです。一見すると美味しそうには見えますが、水不足によりナスに艶が無く(いわゆるボケナス。特に左側のナスは色が薄い)キュウリも曲がり果となってしまったものが目立ちます。



とはいえ、そんな今年の夏も悪い事ばかりではありません。2023年は数年に一度しかやってこないレアな夏でもありました。それは初夏のこと。筑波大学の近く「国立科学博物館筑波実験植物園」でショクダイオオコンニャクが開花したのです。この花の開花は各メディアでも取り上げられたのでご存じの方も多いかもかもしれません。全長は人の背丈を優に超えるほど大きく、しかも数年に一度しか咲きません。次に開花するときは、きっと私は学類を卒業していることでしょう。在学中に一目見ることができたことは、貴重な経験でした。

秋は芋掘れ

三つ四つ、二つ三つなど掘り急ぎそして芋を売り。
(2023年10月14日撮影)



貴方がこの文章を読んでいるということは、令和五年度の雙峰祭はもう既に終わっていることでしょう。

「のうりんむら」では雙峰祭にて、畑で採れた野菜や料理を販売することになりました。主力商品は、サツマイモ。夏の気候はあまりよくありませんでしたが、サツマイモだけは今年も豊作でした。……が、あまりにもたくさん採れてしまい、収穫の手間が大変なことに。嬉しい、そして忙しい実りの秋です。



秋の足音はサークルの畑だけでなく、学内にも。一の矢宿舎には、大きなヒガンバナが咲いていました。

そして最後の写真は、平塚通りから撮影した中秋の名月(2023年9月29日)です。黄色い満月と黄色い信号機のコラボレーション。ちなみに、中秋の名月と満月は必ずしも重なるわけではないそうで、次にこの条件となるのは

2030年のこと。今年のお月様は、しばらくは見られないレアなものでした。



筑波大学の秋を彩るビッグイベント、雙峰祭が終わると、いよいよ寒さも増してくることでしょう。季節の移ろいを感じる今日この頃です。

今号の原稿を書いている11月3日の時点で、2023年の実に83.9%が終了しているのだそう。おおよそ2023年は終わったということにして、この場をお借りし、気の早い2023年の振り返りを行いました。次回は「冬号」にてお会いしましょう。みなさま、良いお年をお迎えください。

(人文・文化学群 人文学類3年 新田悠樹)

5. “かすよんの民” の筑波大学構内への入り方 事故が起こるのも時間の問題？



筑波大生と言えば自転車。それくらいに自転車は我々の足、さらには“人権”であります。そして筑波大生の住処の一つと言えば春日4丁目、通称“かすよん”。

さて、このかすよんと筑波大学構内を自転車で行き来する筑波大生は、毎日のように危険と隣り合わせています。どういうことか？下のマップをご覧ください。

“かすよん”と筑波大学構内（ここでは、カスミ筑波大学店・体芸エリア以北を指します）の間には道路があります。“かすよん”に住む筑波大生はこの道路を横断して筑波大学構内に向かいます（図1）。

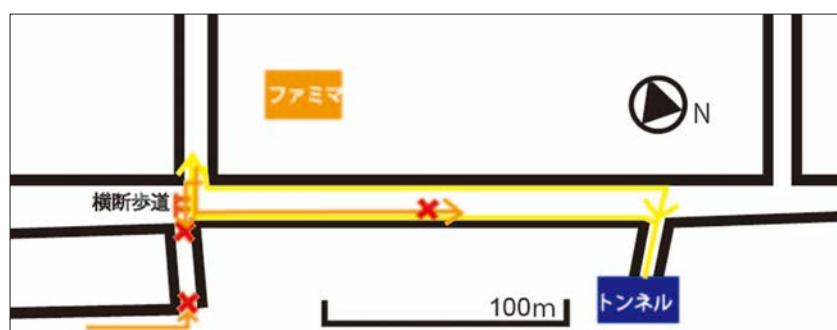


図1 道路を挟んで「ファミマ」側がかすよん、「トンネル」側が筑波大

まさにここが危険なのです。道路を渡った先のトンネルを通ればカスミ筑波大学店への道につながり大学構内に入れるのですが……トンネル側に渡る横断歩道や自転車横断帯及び信号がない＆なのに交通量がそこそこ多い！そのため、左右から来る車の往来の合間を狙って急いで渡っているという現状です。あくまで自転車は軽車両であり、横断する自転車が優先されるべきだと言いたいわけではありません。自動車にとってもいつ飛び出してくるか分からない自転車は恐怖だと思います。



図2 通り方



図3 向こうにトンネルがあるが……

これにはもちろんヒリヒリする瞬間があり、自転車ユーザーが右から車は来ないかと渡った瞬間、左から車が来ていて危なかったという状況も見たことがあります。「それなら横断歩道のあるところまで行って（自転車を降りて）渡れば良いじゃないか」という意見はごもっともですが、それには北方約600メートル先まで行かねばなりません。カスミ筑波大学店でちょっと買い物をしたいという時はかなり遠回りになります。「いやいや、ファミリーマートの近くに横断歩道があるじゃないか」（図4）！



図4 ある!!!

しかしこの横断歩道を渡った先は、筑波技術大学に通う目が不自由な方向けに作られた道で自転車は通行禁止です（図5）。1年前までは自転車の抜け道（非公式）がありそこを使う自転車ユーザーが多かったのですが、安全確保のため封鎖されました。封鎖されてからも歩行者用の道を無理やり通行する自転車ユーザーはおり、筑波大学新聞377号（2023年6月12日発行の10面）がその問題を報じています（「自転車が視覚障害者の通行妨げ 春日地区の歩行者専用通路 本紙改善策探る」という見出しです！）。



図5 「自転車の方は矢印方向約100m先の横断地下道を御利用下さい」

ただ、大半の自転車ユーザーはこの抜け道を諦め、トンネルから出入りする道に切り替えたと思われます。主観ですが、抜け道が封鎖されたからこそトンネルから出入りする道での自転車の往来が増え、危険性が浮き彫りになったとも言えます。

—現状① どのように渡るのか—

まず筑波大学構内からかすよんに帰る場合。ここではギリギリ安全に渡れる方法があります。まず、道を抜けてすぐ左を通行し、その先の横断歩道（ファミマ前、自転車通行止め手前）を（自転車を降りて）渡れば良いのです。ただ、横断歩道にたどり着くまでの道幅が狭く、通り過ぎる車が大きく避けてくれなければ追突されます。この前は後ろからの車にクラクションを鳴らされてしまいました。そうするとやはりトンネル手前で横断してしまうのが楽です。



図6 すぐに左折した場合の車幅

次にかすよんから筑波大学構内へ向かう場合。ここが回避不可能です。ファミマ前の横断歩道を渡ってから入ろうとすれば右側通行になってしまうので、やはりトンネル手前まで進んでから車の往来に突っ込むほかありません（まあそれが 600 m先の横断歩道に行けという話ですが……）。

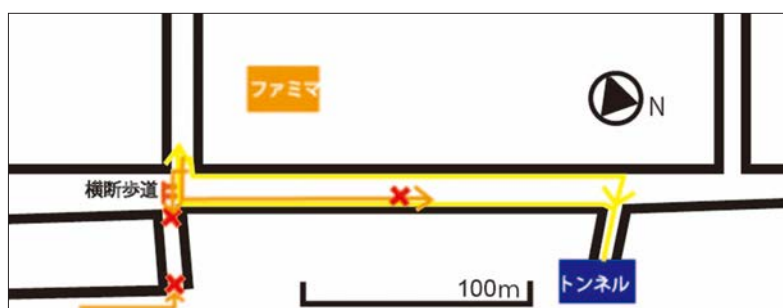


図7 渡り方に注目

—現状② 実態は—

先程から交通量がそこそこ多いとか、横断する自転車が多いとか書いていますが、どれくらいなものか気になりますよね。調査してみました！！

時間：2023年10月30日16時～16時半

場所：トンネル前

結果：

車・バイクの往来→131台

横断した自転車→78台

横断した歩行者→15人

クラクションを鳴らした車→1台

30分間でこの数なので、交通量はそこそこあると言えるでしょう。みなさん車の合間を狙うのがうまいのかクラクションが鳴るほど危ない状態になったのは1台だけでした。そうは言っても車もわりとスピードを出している道で自転車や歩行者が闇雲に横断するのは危険であることに変わりません。

—困っているのはかすよん自転車ユーザーだけか？—

これまでかすよん自転車ユーザーが（自動車ユーザーにとっても）危険だぞという書き方でしたが、もちろんこの道を使うのはそういった方々だけではありません。私が問題だと感じたのは、車椅子ユーザーでした。ある昼下がり、トンネルを抜けた車椅子利用者と1人の歩行者がかすよん側へ渡ろうとしていましたが、車の往来がそこそこあり渡れない様子。そこで2人はそのまま左折し道路の左側を通行し始めました。歩道という歩道もない道、ビュンビュンとスピードを上げる車が2人の横を避けながらもスレスレに通り過ぎていきます。その後は見ていないのですが、多くの人が利用できる道ではないと感じました。また、車椅子ユーザーは、ファミマの前の横断歩道がある道を行き来することもできません。自転車通行止めのために設置されたポールによって車椅子は通れないからです。このあたりの道で一番深刻なのは、車椅子ユーザーの移動の方かもしれません。



図8 問題となるポール（図7の一番左下の×の部分）

以上、ここに書かれても……な問題ではありますが、いち筑波大生が「疑問だなあ」「問題だなあ」と感じる声をお届けしてみました。車のクラクションが鳴る今日も、事故が起きるのは時間の問題と思わざるをえません。自動車も自転車も、歩行者も一層の注意が必要です。

（人文・文化学群 比較文化学類4年 山田優芽）

6. 筑波の近況・秋 丸善の P.O.P.



日本学生支援機構の第二種奨学生に、本を買う余裕などモチロン無い。それにも関わらず第二種奨学生は、大学会館前の丸善店内をノロノロ徘徊していた、いつも通りのことである。

ふと第二種奨学生は、目につく棚に《 TikToker が大学生にすすめる本 》と題された P.O.P. (point of purchase) 広告を見つけた。とうぜん第二種奨学生＝大学生は、オオッ、コレハアリガタイと足を止め、カネサエアレバネエ、と遠慮しながら、立ち読みの準備（眼鏡をかけ直したり、足の裏で体重をバランスしたりなど）を始める。

さて店員さんが《 TikTok 動画で / < 大学生におすすめ！ > / として紹介されている本を / 取り揃え 》てくださったという平積みを目を落とすと、まず『スマホ失明』（かんき出版）という皮肉の効いた新書が飛び込んできた。それに続くのは『バカと無知』（新潮社）、『第三次世界大戦 日本はこうなる』（SB クリエイティブ）、『これから市場価値が上がる人』（ポプラ社）、『20代にしておきたい 17 のこと』（大和書房）、『「答えのないゲーム」を楽しむ思考技術』（実業之日本社）など。初めてお目にかかる新書の数々を前に、大学生は再び心の中でつぶやく、コレハアリガタイ。

早速、本の山の中で一番高さの減っている『20代にしておきたい 17 のこと』を（エッ 17 個モアルノ？と怯え震える 22 歳の手で）取り上げてみると、帯が叫んでいる。

《（8pt くらいで）シリーズ（そして 72pt くらいで）200 万部突破！ 》

大変な人気作家と見えるその著者について調べたところ、長髪の著者＝《本田健（ほんだ・けん）／神戸生まれ。 》は、《経営コンサルタント、投資家を経て（中略）4 年の育児生活中に作家になるビジョンを得て、執筆生活をスタート 》（『本田健 公式サイト』より抜粋）なさったらしいのだが、実は《ビジョンを得て 》まで読んで思い出したのは、ビート・ジェネレーションの教祖のひとり、長髪のアレン・ギンズバーグが、おそらく短髪時代に、ウィリアム・ブレイクの声の幻聴したという話だった。聖なる幻聴者＝長髪のアレン・ギンズバーグは、聖なるブレイクの詩篇『Songs of Innocence and of Experience』を題材にした音源『SONGS OF INNOCENCE AND EXPERIENCE』を制作したので、ここで詩の一部を唐突に引用してみる。

《あふれ落ちる 涙を見て
われも悲しいと 感ぜずにいられるか？
わが子の泣くのを見ながら 父親が
悲しみに胸打たれ 泣かずにいられるか？

坐ったままで 聞くことができるか 母親は
おさなごの呻きを おさなごの悲しみを？
いな いな！ 決して できはしない！

決して 決して できはしない！ 》（『ブレイク詩集』寿岳文章訳、岩波書店）

Holy！育児休暇を取得する男性は増えつつあるのらしい……では、その期間の長さは？期間中の家事の負担の度合いなどの、いわゆる内訳は？これらの可視化は統計では中々難しいのだそうで、

—実状はまだまだかもしれないですねえ。

と、最近「本と喫茶 サッフォー」で聞いたものだが、holy、さて、大学生は聖なる本題に戻るのか？……聖なる長髪の育児生活者＝アレン・ギンズバーグの《著書》は《200冊以上、累計発行部数は800万部を突破している。》（『本田健 公式サイト』より抜粋）Holy！Holy！

では、イザ、『20代に……』をめくると、表題《始めに 20代という「瞬間」》に続き、《この本を手にとってくださり、ありがとうございます。／あなたとこういうかたちで出会えて、とても嬉しく思います。》

と、holy、印刷された文字が、《ご来場の皆様、厳しい戦いの時代とは言うものの、現代にはそろそろ、未来の光がさして来たようでございます。》（『プレヒト戯曲選集 第4巻』岩淵達治 訳、白水社）という劇の前口上さながらに、いきなりこちらへ話しかけてくるではないか（注1）。かつてリュミエール兄弟のシネマトグラフの観客が、銀幕から汽車が飛び出してきたと錯覚して思わず目を逸らしてしまった（らしい）時のように、思わず本を閉じて元あった聖域に戻ってしまった。

先ノ新書ハモットヒッピーッポイ格好ヲシタ日ニデモ拝読スルトシヨウ、と一旦の落ち着きをマリワナに頼ることもなく（注2）取り戻し、P.O.P. 広告の柵を後にして2、3歩奥へ進むと、岩波新書のコーナーが迎えてくれる。そこに発見した、その序文として用意されている《プロローグ 死者の怒りを共有することによって慎む》をめくるうちに涙を抑えがたくなり、店内で号泣するのは誠に holy！と涙目でレジに通した『沖縄ノート』（岩波書店）を片手に、慌ただしく店を出た。思わぬ出費を故・大江健三郎に捧げる（注3）。

ところで、丸善の出口のあたりに少し前「名作映画パンフレット」が陳列されていたことを思い出すが、そこに無いはずはない成瀬巳喜男監督作品のパンフレットをなかなか見つけることができず、ない！ない！と汗水流してガサガサやり、結局ゼミの時間だったかで諦めてしまったのだった（まったく何をやっている？！と身内に呆れられたが、こちらとしては holy 切実なのですから、どうか大目に見てくれませんか！と申し述べたい）。自らの搜索能力の無さに腹を立てつつ店を出るも、イヤ待テ、成瀬映画ノパンフレットガ売レ残ッテイル方ガ寧ロオカシイノジャンイカ？と即刻納得し、いつもの様に研究室へと向かった（指導教官は、かつての職場に大江健三郎が講演に来たことがあったらしく—とても聴き取りやすい英語でした。聴衆のきわどい質問に納得のいく答えを提示していて感心しました。「大江」のアルファベット表記が「Oe」だというのをオモシロク思いました。などと語ってくれた）。

さてここで今一度、丸善の P.O.P. 広告を思い出してみると、あの目新しい新書の数々を大学生にご推薦くださった TikToker の皆様を、holy、何という無礼か、大学生はことごとく存じ上げていなかった（P.O.P. 広告自体にそれが誰なのかは明記されていなかったにしても）。そこで失明を恐れながら聖なるスマホを開いて TikTok をインストールしてみる。慣れないユーザー・インターフェースに戸惑いつつ「大学生におすすめの本」と検索をかけると、画面の内部で縦長の窓が2列をなして無数に連なり始めた、ある窓からは、おそらく著者および出版社には無許可で掲載した書影が！またある窓からは、チャップリンのようにカクカク動く若いプレゼンター達が！その中には循環バス内の音声広告でよく耳にする《ニホンハツ・授業ヲシナイ・武田塾》の講師もいるではないか！「授業をしない学習塾」という、聴くのみで想像するほかなかったフィクションが、ちいさい縦長の長方形枠内に現実化した瞬間は holy、そ

して各窓の中央ではチカチカと、丸っこい書体のカラフルな字幕が《大学生にオススメの本3選云々！》と叫んでいる。その多くは論文執筆や就職活動に役立つという旨だ、学類の4年どもはこれを特に喜ぼうではないか、イヤサカ！

無限に連なる窓という窓が、真っ黒の液晶画面全体に聖なる彩りを与え出した時、では、イザ、と平積みの記憶を手元の画面と照らし合わせてみて、それらがなかなか合致しないことに戸惑うも、おそらく検索条件が違うのだろうと納得するほかなかった。

注1) このような演出はよくあるのだろうか、先々月横浜の赤レンガ倉庫に見に行った『平山素子×笠井叡 J.S. バッハ作曲「フーガの技法」を踊る』の終盤、笠井叡氏がいきなり観客の方に向かって「汝よ 我が踊りに加われ」と語りかけてきたとき、ドキリとして汗が止まらなくなったものだった。また、平山素子准教授は当日、喉を潰されていたらしく、その事をアフター・トークにて苦しそうな声で告白し、准教授のみ筆談と代読で対応されていた。しかし先のパフォーマンスを観たばかりの観客は、思わず、ウソダロと言いたくなった。

注2) 『ギンズバーグ詩集』(諏訪優 訳、思潮社) 参照

注3) 先日、この時と同じ動線を辿ったので後日談として注釈に書き加える。まず相変わらずのP.O.P. 広告の棚に1人の学生が立ち読みしているのを発見したものの、読まれているのが何の本なのか確かめられず、アアと落胆するまま平積みに目を落とし、一番減っているのが今度ハ『第三次世界大戦 日本はこうなる』(SBクリエイティブ)ニ変ワッタヨウダナと確認すると、またぞろ岩波新書のコーナーへ移り、そこに発見した、読み進めるうちに『晩年様式集(イン・レイト・スタイル)』(講談社)の《前口上として》を思い出し、熱くなる目頭は holy! と涙目でレジに通した『親密な手紙』(岩波書店)を片手に、慌ただしく店を出た。思わぬ出費を故・大江健三郎に捧げる。

(理工学群 工学システム学類4年 野澤遼太郎)

編集後記

長く続いた暑い夏が急に終わり、寒い秋が突如やってきました(なんてこった)。私は卒業論文で、ここ半年間里山で野外調査をしているのですが、天候の厳しさを身にしみて感じています。最近「ストレスをためると後でガタが来る」を免罪符に、卒論に追われながらもダラダラとすごしております(来年から社会人になったらずっと忙しいんだろうな……。え? 卒論締め切り1ヶ月を切る? うあああああ。

師走に入り、文字通りドタバタな日々かもしれませんが、皆様も体調に気をつけてお過ごしください。

(人文・文化学群 比較文化学類 山田優芽)

🌸 第 26 回（令和 5 年度）筑波大学ホームカミングデーを開催！！ 🌸

11月4日、第26回（令和5年度）筑波大学ホームカミングデーを開催しました。

令和5年度は、卒業後19年、21年の対象学年の卒業・修了生も招待し、総勢500人近くの卒業生やそのご家族や教職員の皆様が参加され、懐かしい友人や恩師との再会を楽しみました。



当日、会場で上映した動画の一部を YouTube でも公開していますので、ぜひご視聴ください。

【現役学生に突撃！】 筑波大生の宿舎ライフに迫る！

現役学生に突撃して、学生宿舎での生活の様子を撮影させていただきました。

今回ご紹介する宿舎は、昔からある“平砂宿舎”と新しい“グローバルヴィレッジ”です。今の筑波大生の宿舎生活はどんな感じなのでしょう！？



<https://www.youtube.com/watch?v=pQ6tpr4WK7o>

【クイズ】筑波大学探検ツアー！ 新しい学群!? 地下!? 最も遠い銀河の発見!?

現役学生がキャンパス内を探検！様々なフシギを訪ねてクイズを出題します。

新しい学群の誕生!? 大学の地下を探検!? 最も遠い銀河を筑波大学が発見!? ぜひお楽しみください。



<https://www.youtube.com/watch?v=EIVJuWdYsRQ>

🌸 大学評判アンケートへのご協力をお願い 🌸

近年、社会的に話題になることが多い世界大学ランキングのひとつに、英国クアクアレリ・シモンズ社（QS 社）が発表する QS 世界大学ランキングというものがあります。このランキングでは、研究者や企業の方に大学の評価を問うアンケート調査が行われており、その結果が順位に大きく影響します。卒業生の皆様におかれては、ぜひこのアンケート調査へご参加頂き、母校の国際評判向上のためにご協力をお願いいたします。

現在、アンケート回答のための事前エントリーを、下記フォームで行っておりますので、12月中旬頃までを目途にご登録をよろしくお願ひします。

【大学評判アンケート参加登録フォーム】

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/governance/regi/qs-survey-alumi.html>

（筑波大学ランキング対応チーム）

編集・発行：「ペデジャーなる」編集ワーキンググループ

デザイン・配信作業：国立大学法人筑波大学事業開発推進室

ご意見・問い合わせ先：国立大学法人筑波大学事業開発推進室

〒 305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1-1

TEL 029-853-2030 FAX 029-853-6576



メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。

©2023 University of Tsukuba.

【お詫びと訂正】

「ペデジャーなる vol.50-2023- 夏号 - (2023年8月発行)」に掲載しました次の記事におきまして、誤りがありました。

● 17ページ10行目（誤）三田村峻右教授（正）三田村駿右教授

ご迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

🌸 「ペデジャーなる」のバックナンバーはこちらから

➡筑波大学メールマガジン『ペデジャーなる』

<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/alumni/pedeja/>

🌸 配信先・ご住所などの変更は以下のフォームよりご登録をお願いいたします

➡登録フォーム <https://forms.office.com/r/0ndsbfM04q>